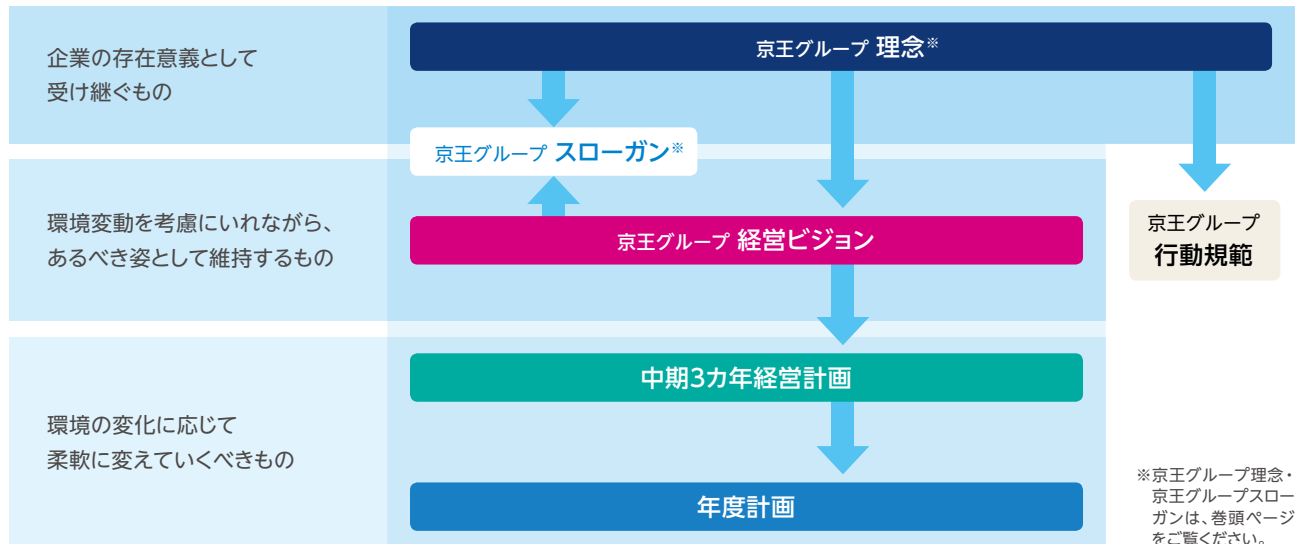


企業価値の向上を目指して

京王グループでは、京王グループ理念を具現化し、経営計画につなげるための指針・将来像として「京王グループ経営ビジョン」を制定しています。そして、「京王グループ行動規範」を定め、事業活動を通じて社員一人ひとりが社会の持続的な発展に貢献していくことを目指しています。



京王グループ 経営ビジョン

京王グループは、変化する社会のニーズに対応したサービスを提供し、安心・便利で生き活きとした沿線づくりに取り組むことで、信頼され「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」を追い求め続けます。また、発展し続けるグループへの変革を目指すため、成長する新たな市場へチャレンジします。

(2003年1月1日制定、2012年4月1日改定)

京王グループ 行動規範

「信頼のトップブランド」になるため、私たちは以下のとおり行動します。

企業活動を通じて社会に貢献します

- ・お客様の幸せな生活に資する商品・サービスを提供します
- ・常に商品・サービスの品質、安全性の向上を追求します
- ・適時適切な情報開示に努めるとともに、お客様の声を事業活動に活かします

法令・社内規程を遵守し、健全・公正な企業活動を行って、企業価値の向上に努めます

- ・全てのステークホルダー（お客様・株主・取引先・社員などの関係者）に対して、相互に適正な利益を確保できるよう互いを尊重します
- ・法令を正しく理解し、法令に則った手続きを行うことで、公的機関等と適切な関係を維持します
- ・反社会的な組織、人物に対しては断固とした姿勢で臨みます

- ・知的財産や情報の取扱いに細心の注意を払います
- ・社員個人の権利を尊重し、社員同士が信頼しあえる風通しの良い職場づくりをします

社会の一員としての責任を果たします

- ・すべての人にやさしい環境づくりを進めます
- ・リサイクル、省エネなど環境保護に積極的に取り組みます
- ・社会に貢献し、社会と共に発展するための活動に取り組みます
- ・社会の変化に対応し、よき企業市民であるためのチャレンジをしつづけます

(2004年4月1日制定)

中期3カ年経営計画

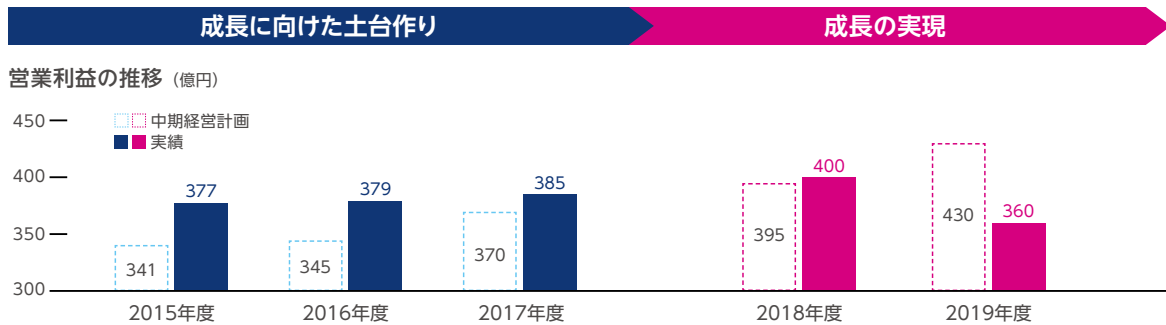
京王グループでは、2015年度からの6年間で3年ずつに区切り、2020年度を目標年度としてあるべき姿を描いたうえで、前半の2015年度～2017年度については戦略投資をはじめとした「成長に向けた土台作り」を進めてきました。後半の2018年度～2020年度については、これまでにまいた種から成長の芽を育て、収穫するため、戦略投資案件の収益化および事業の選択と集中を推進し、「成長の実現」を完遂すべく、2018年度までは順調に推移してきました。

2018年度～2019年度の主な取り組み

- **京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進**
用地取得ならびに高架化のための準備工事の推進
- **ラグビーワールドカップ2019™に向けた取り組み**
飛田給駅でのホームドアの使用を開始(2、3番線)
安全・防犯対策の強化等を目的に踏切監視カメラの増設や、京王線全編成に前方監視カメラを設置
- **京王線ダイヤ改正の実施**
座席指定列車「京王ライナー」の平日の朝間および夕夜間時間帯の運行を拡大
- **ホテル事業の拡大**
京王プレミアホテルの開業(京都、札幌)
THE SHARE HOTELS 京都、広島、東京の開業および竣工
高山グリーンホテル新館「桜凜閣」を竣工

新型コロナウイルス感染拡大と中期経営計画の進捗

2019年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、訪日外国人旅行者が急激に減少したほか、外出自粛により国内個人消費も低迷するなど、当社グループの事業活動にも大きな影響を受けることとなりました。その結果、営業収益は、4,336億円、営業利益は360億円となりました。



2020年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により国内個人消費が大幅に減少するなど、経済情勢は当社グループにとって極めて厳しい状況となっておりますが、引き続き、国内外の感染症の動向や経済環境の変動等を注視し、その影響を見極めてまいります。

持続的な成長に向けて

ポストコロナに向けて、変化に対応した事業戦略を検討

- ポストコロナの「ニューノーマル」に対応したサービススタンダードの検討

中長期課題の着実な推進

- 将来を見据えた必要な投資(京王線連続立体交差事業、新宿駅周辺再開発事業)
- コーポレート・ガバナンス体制の充実

消費動向や働き方、ライフスタイルの変化に柔軟に対応しながら、グループ一丸となって難局を乗り越え、京王グループの持続的な成長を目指す